

## 〈 小学校 特別活動 〉

# 集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育成する指導の工夫

～言語活動の充実を図るワークシートの工夫を通して（第3学年）～

糸満市立兼城小学校教諭 砂川 由美子

### I テーマ設定の理由

21世紀は「知識基盤社会化」、 「グローバル化」の時代と言われ、変化が激しく複雑な人間関係の中で新しい未知の課題に試行錯誤しながら対応することが求められる難しい社会である。そのため児童にとっては、たくましく生きるために、自分のよさや個性を生かして、多様な他者と共に生きる生き方を体験的に学ぶ場が必要である。平成20年に改訂された学習指導要領解説特別活動編（以下「解説特別活動編」と表す）では、特別活動の目標として「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的態度を育てる」ことが示された。このような社会情勢に対して、望ましい集団活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身に付けるなど、児童の人間形成を図ることを特質とする特別活動の果たす役割は大きい。

解説特別活動編によると、中学年の児童は、「集団意識が芽生えてきてそれぞれの集団での目標について、ある程度共通に理解し持続して活動することができるが、まだ、個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、その集団に所属する成員の間にはっきりとした相互依存の関係はみられない。」とされている。そのことから、子どもたちが協力し合って楽しい学級生活をつくることのできるような指導が求められる。

私の実践を振り返ってみるとこれまでも学級の課題に対して話し合いを取り組ませてきたが、一部の発言力のある子の意見に左右されてものごとが決定したり、子どもたちのふり返りから生まれた活動ではなく教師が主導して実現した実践などが多かったりした。そのため、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画しようとする意識を高めることができず、協力して諸問題を解決しようする自主的・実践的態度の育成にまでは至らなかった。そこで、中学年としての発達段階を生かし、特に楽しい学級生活作りのための活動の充実の工夫し、児童に自分の行動や集団としての活動の反省が活かせるような取り組みを行い、進んで諸問題を解決しようとする児童の育成を目指したい。

本研究では、「解説特別活動編」第3章学級活動（2）ウ「望ましい人間関係の形成」において中学年として育てたい「協力し合おうとする人間関係」について、活動のふり返りを書いて、考える活動を充実させ、協力することの大切さを学ばせていきたい。児童が自分の行動や集団としての活動のふり返りを書き、自らの考えや集団の考えを発展することができる言語活動の充実を図る。そこから「協力し合おうとする人間関係」について、みんなで考え取り組んでいこうとする自主的・実践的な態度が育ち、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育成することにつながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

### 〈研究仮説〉

学級活動（2）ウ「望ましい人間関係の形成」において、自分の行動や集団としての活動の振り返りをワークシートに書くことを通して、自らの考えや集団の考えを発展させる言語活動の充実を図ることができれば、協力することについてみんなで考え取り組んでいこうとする自主的・実践的な態度が育ち、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育成することができるであろう。

## II 研究内容

### 1 集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度の育成について

集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度の育成について、「解説特別活動編」では「様々な集団活動を通して自分の所属する集団への所属意識を持ち、集団の一員として自覚をもって生活の向上のために進んで貢献していこうとする社会性の基礎を育成していくこと」とされている。特別活動は「なすことによって学ぶ」を方法原理としており、集団による実践的な活動を特質としている。「実践的な活動とは、自分たちの力で諸問題の解決に向けて具体的な活動を実践すること」と「解説特別活動編」にはあり、子どもたちが、自分たちの課題に気づいたり、解決に向けて思考・判断を深め、集団活動を行うのに必要な、知識や技能を身につけさせるような取り組みが必要になってくる。そのために、子どもたちのつながり合う力や、支え合う力、教師と児童の人間的な触れ合いが重要になる。そこで、教師が教え込むのではなく、グループや集団での学び合いによって、子どもたちの肯定的な人間関係を作り上げることの大切さを実感できるようにしていきたい。また、子どもたちの考えを引き出したり、判断させたりするために言語活動は欠かせないものであり、言語活動の充実にも併せて取り組んでいく。

### 2 言語活動の充実と気づきを引き出す書く活動について

#### (1) 言語活動の充実とは

「言語活動の充実」が出された背景の一つに、PISAの調査から、わが国の子どもは、諸外国の子どもたちと比べて、記述式の問題の正答率が低いという結果が出たことにある。学習指導要領でも「各教科においては目標と指導事項との関連及び児童生徒の発達段階や言語力を踏まえて言語活動を計画的に位置付け、授業の構成や指導の在り方自体を工夫・改善していくことが求められる。」とある。平成22年に文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集・教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項〈特別活動〉」では、「よりよい人間関係を築くために、自分の考えや思いを自分の言葉で主張できる子どもを育て、考え方の違いや多様性が十分に発揮できるようにするとともに、その違いや多様性を超えて集団として意見 まとめ、総意を決め、協力して実現する活動を重視する」と示されている。また、「実践したことや体験したことを自分の言葉でまとめ、発表し合ったり、記録文に表したことを自己の生き方についての考えを深めるために活用する活動を一層重視する。」とも示されている。

そこで、本実践では、ワークシートに、自分の行動や集団としての活動のふり返りをくり返し書くことで、自分の考えを文章や言葉で表現できるようにする。また、友達との交流によって思考を深めるなど言語活動が充実することを目指す。そこから、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度の育成を図る。

#### (2) 気づきを引き出す活動と書く活動について

##### ① 「気づき」を引き出す活動

上条晴夫（2007年）は授業のモデルを右図（図1）のように示し、これまでの、学習の進展に応じて、その都度、教師が指示を出す進め方から、ワークシートなどを使って、児童が活動の目的や活動の流れが分か

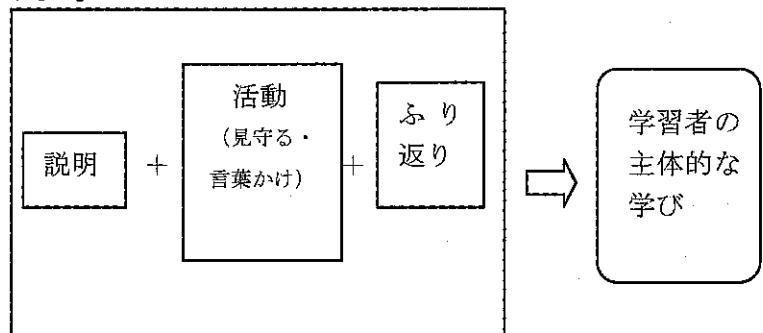


図1 上条の授業モデル

るようにすることで、子どもたちは、主体的に学ぶことができるというものである。

しかし、「ただ、教室が盛り上がるような活動ではなく、誰かと何かをしながら気づいていくプロセス（過程）が生まれる活動であることが大切で、学習者の気づきを引き出す仕掛けが必要である。」と述べている。その仕掛けとして学級の雰囲気明るくする「遊び・ゲーム的活動」、学び合いによって思考の広さ・深さを生み出す「表現・制作的な活動」、多様な考えを交流させいい意見にまとめる「討論・話合的活動」の三つをあげている。

また、活動を選ぶ基準として、子ども達の集団状態にどのくらい合致するか、子どもたちの相互交流をどのくらい生み出すか、子ども達の集団状態にどのくらい合致するかを目安にするとよいとある。本実践では発達段階を考え、ゲーム的活動と話合的活動に取り組んでいく。

表1 上条の三つの仕掛けとねらい

仕掛け	内容	ねらい
遊び・ゲーム的活動	ゲーム クイズ 遊びなど	・学びの場が活性化 ・自由な間違いが学びを生み出す
表現・制作的な活動	作文 ロールプレイ スピーチ など	・学び合いで思考の広さ・深さを生み出す ・教師示す「答え」だけでなく、活動をめぐって展開される学習者の思考活動
討論・話合的活動	ディベート など	・違いを多様な考え、意見の中から学ぶ ・みんなの意見をまとめる話合活動

### ②気づきを共有化

活動から気づいたことを表2のような流れで進めることで、子どもたちの思考の深まりを目指す。まず、気づきを引き出す活動で気づいたことをふり返りワークシートに書く。それを友達と交流することで自分の考えを、広げる。また、グループ活動で話し合いを行うことで、さらに思考を深めるなど、高まった気づきを書くことへつなげたいと考えた。

表2 思考の深まり方

活動	流れ	考えが洗練されていく
個人	気づき	
↓ グループ	思考の広がり	
↓ 全体	思考の深まり	
↓ 書く	深まったふり返り	

表3 上条の考える活動の学びを書く良さ

### ③書く活動

書いて記録に残すという活動は、集団の一員として、よりよい態度を育むために、気づかせたり、考えさせるために、中学年の実態からみても重要だと考える。

よい書かせ方として、上条晴夫（2007年）は、「情動を動かしたり、思考力に磨きをかけたりするような活動を展開させ、学習者の、学びをつぶさに記録・考察するような学習作文を書かせることが、子どもたちの豊かな学びを生む、と述べている。

	良さ	手法	期待される効果
活動の中の学びを書く良さ	学びの履歴を残す	○活動を通して、気づいたこと・（それをもとに）考えたことを書く	・気づきを自己確認する ・体験的な学びを自分の学びに位置づけて考える力を鍛える。
	学びの回路を開く	○思いつきを列挙 ○並べたものの中でどれを書くか選択	・書き続けることによって、書く内容の深化や気づきが鋭くなり、考えも深く広がっていく。
	学びの作戦を促す	○活動・ふり返り、活動・ふり返り、というサイクルによる学び	・次の活動の作戦の芽になる。 ・ふり返りが上達する

また、体験的な学びを書く良さとして三つあげている。一つ目はふり返りをその度ごとに書き続けることで、学習者は「学びの履歴が残る」を手に入れることができる。学びの履歴を手に入れるとは、「学んだことも時間と共に薄れてしまうので、自分の学びを後から見直してそのときの学びを体験事実とともに思い出すことができる。」二つ目は、「学びの回路を開く」、学びの回路を開くとは、「ふり返りをその度ごとに書き続けることによって、気づきが鋭くなったり、考えも深く広くなったりするなど、書く内容が少しずつ深化する。」三つ目は「学びの作戦を促す」、学びの作戦を促すとは、「活動などで得た知見は、その後、一般化が起こって、次の活動の作戦の芽となることが多い。」と述べている。

上条の書く活動は、気づいたことを書くという言語活動をさせる事で視覚化させる事ができる。また、課題に対して忘れないようにしたり、気づきを鋭くさせたりすることから主体的に学ぶことができ、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度の育成につながると考える。

本実践の協力についても、学びの履歴が残る、学びの回路を開く、学びの作戦を促す事ができるようなワークシートを作製し取り組ませていく。

### (3) 本実践での取り組み内容

#### ① 気づきを引き出す仕掛け

上条の考えをうけ、気づきを引き出す仕掛けでは、3年生ということもあり、「遊び・ゲーム的活動」で興味・関心を高める。また、答えが一つではないという「討論・話し合い的活動」を実践する事で、多くの子が意見を出すことを目指す。

#### ② 活動の学びを書く良さ

資料1のワークシートを活用し、上条の考える、活動の学びを書く良さを取り入れていく。ワークシートを記録に残し、個人ファイルを作成することで、学びの履歴を残す。自分の考えで学びの回路を開く。個人目標と実践活動で実践を促すことに取り組んでいく。具体的な活用例を下記に示す。

**1「アクティビティ」**  
アクティビティで気づいたこと  
友達の考えを聞いて思ったこと

学習すること	名前 ( )
1. アクティビティで思ったこと *友達の考えを聞いて思ったこと	
2. 自分の考え	
うれしいこと	いやだと思ふこと
一番いいと思ふ方法の一つ決めよう	
グループの話し合いをして	
3. こんなことががんばります (いつ、どこで、だれに、どんなこと)	
4. できたか調べて見よう 進んでできた◎ 言われてできた○ できなかった△	
/ ( )	/ ( )
/ ( )	/ ( )
/ ( )	/ ( )
5. これからがんばりたいこと	
6. 先生から	

**2「自分の考え」**  
・肯定的言動と否定的言動に分けて書く。  
・理由を書く。

**2「自分の考え」**  
グループの話し合いで考えの変化などを書く

**4「実践活動」**  
・実践活動の記録を取り、ふり返る。  
・新しい目標の設定

資料1 ワークシートの例



### Ⅲ 授業の実践

#### 1 検証授業の指導

##### (1) 題材名 「みんなで協力」

(2) ウ 望ましい人間関係の形成

##### (2) 題材設定理由

- ① 教材観 省略
- ② 児童観 協力に関するアンケート (抜粋)

クラスの男女の仲はいいと思いますか	はい 44%	いいえ 56%
理由	ケンカが少ない 3人 ケンカがへった 1人	ケンカが多い9人 悪口を言う 4人 遊ばない 5人

##### ③ 指導観

本学級の児童は、少数の仲の良い友達はあるが、男女に関するアンケートの結果で、半数以上の子が男女間の仲がよくないと答えていたことから、仲良し集団による活動が中心となっていると思われる。そこで、仲間として協力することの大切さについて、児童が想起しやすい当番活動などで、考えさせていく。具体的な指導内容として、アクティビティを通して楽しい学級生活をつくることに対する意欲を高め、その大切さに気づかせワークシートに書かせる。次に、協力することについて、一人で考えたりグループで考えたりするなど話し合いによって思考を深め、よい意見にまとめことで言語活動の充実を図る。さらに、学級で協力することについて各自の具体的な個人目標を設定させ、自主性の育成を目指し、実践させ、実践活動をふり返り、新たな目標を設定させる活動に取り組ませる。

本題材を通して仲間として協力することに対して言語活動を行う事で思考を深め、相互理解ができるなど望ましい人間関係の形成を図ることができる。それが、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度の育成につながると考える。

##### (3) 目標と評価

###### ① 単元の目標



話し合いの場においてみんなが協力の気持ちを持って学級生活を送ることの大切さに気づき実践できるようにする

###### ② 評価規準

学級活動 (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全における第3学年及び第4年の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

(4) 指導計画

時	学習活動	留意点	評価規準・方法	言語活動
第1時 学活	1 アクティビティ 2 協力について話し合う 3 学級で協力している場面を想起させる 4 協力している場面でうれしかった事や嫌な事を思い出し書く 5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力することの楽しさに気づき意欲を高める</li> <li>個人の考えを発表させる。</li> <li>生活の中から思い出させる。(係・給食当番など)</li> <li>好きな場面で協力する方法について個人で考える。</li> <li>今日の学習でわかったことを書く。</li> </ul>	 <p>◇仲間として協力することの大切さに気づくことができる (知識・理解) (ワークシート) ◇協力について思考を深める (思考・判断・実践)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気づいたことを書く</li> <li>教師主導で実際の生活をもとに話し合う。</li> <li>協力の場となっているか全体で共有する。(話し合い)</li> <li>肯定的言動と否定的言動を分けて書くことで思考を深める。</li> <li>分かったことを書く</li> </ul>
第2時 学活 本時	1 アクティビティ 2 グループでおすすめを話し合う 3 グループで決まった事を全体で発表し、共有する。 4 個人目標をたてる	<ul style="list-style-type: none"> <li>気づいたことを書く</li> <li>前時で考えた方法を持ち寄って話し合いをする</li> <li>それぞれのグループの考えが協りに合っているか確認する。</li> <li>自分はどうするのかを考え目標を決める</li> </ul>	 <p>・具体的目標を立てる事ができる。 (思考・判断・実践)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気づいたことをみんなの前で発表する</li> <li>自分の考えと、友達の意見を聞き比べ発表できる</li> <li>さまざまな意見からいいものにまとめていく。</li> </ul>
朝の会や帰りの会	事後活動① 目標に沿った実践活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の決めた目標に沿って実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践に対して意欲的に取り組むことができたか (ワークシート) (関心・意欲・態度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなのためにできることを実践することで、友達との交流を図る。</li> </ul>
	事後活動② ふり振り返り活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践後の反省を行い、次の目標を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践に対して自分の行動を振り返り、次の目標を立てる事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに実践後の記録をまとめ、感想を書き、新しい目標を立てることができる。</li> </ul>

(5) 本時の学習 (2/2)

① 本時のねらい

みんなが協力の気持ちを持って学級生活を送ることの大切さが分かり実践に向けて意欲をもつことができるようにする。

② 授業仮説

アクティビティを通して仲間として協力することの大切さが分かり、ワークシートに書いた自分の考えをもとに、グループでの話し合い活動で協力についての思考を深めることができれば、自分の目標を設定できるであろう。

段階	学習活動	○学習内容	■指導上の留意点 ◇評価
導入 5分	1 前時を想起する 2 めあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">協力についてグループやみんなで考えよう</div>	○前時を思い出し協力ってどういうことだったか確認する ○声に出して読む	■協力や仲間について、前時のワークシートを見て思い出させる
展開 35分	3 協力する事のよさを感じるアクティビティを行う 4 アクティビティ後の感想を発表する。 5 協力できることを考え、いいと思う肯定的言動を決める。 6 同じ場面の児童が集まり、グループを作る。 8 グループで決まったことを発表する 9 全体で確認する 10 個人目標を設定する	○児童を2グループに分け、ペアで歩いたり止まったりする ○前時のアクティビティと比べたり新しく協力のために大切なことがないか考える。 ○選んだ言動を付箋紙に書く。 ○自分が話し合ってみたい場面を選んで話し合いをする。 ○協力することになっているか確認する。 ○いい協力する方法はどれか話し合う	■ペアがいるか確認し、前時の勉強を生かそうとしているか様子を見る ■協力につながりそうな言葉は板書する。 ■気づいたことを書かせる ■前時のプリントを確認し、どんな言葉や行動をうれしいと感じていたか確認する。 ■メンバーの意見の良いところを言い合い、よりよい意見にまとめていく。 ■理由も発表させるようにする。 ■教師が主導となって進め、自分たちが実践していくことに気づかせる ◇具体的目標を書くことができる(思考・判断・実践)
終末 5分	11 振り返り	○今日の学習で分かったことを感想でまとめる	☆分かったことや思ったことを書く。

③ 評価

みんなが協力の気持ちを持って学級生活を送ることの大切さが分かり実践に向けて意欲をもつことができたか。



## 2. 仮説の検証と考察

本研究では、ワークシートを活用した言語活動の充実をはかる授業に取り組んだ。児童の振り返りを書いたワークシートから検証する。

### (1) ワークシートに書くことで言語活動の充実を図ることについて

#### ① 自分の考えの持たせ方

解決したい課題について、これまでのことを思い出した嬉しかった行動や言葉など肯定的言動と、嫌だった行動や言葉、否定的言動を思いついた順に書けるだけ分けて書く活動を行う。(写真1) その中から、おすすめを決めて付箋紙に書き、理由も考えるなど話し合いの準備をした。

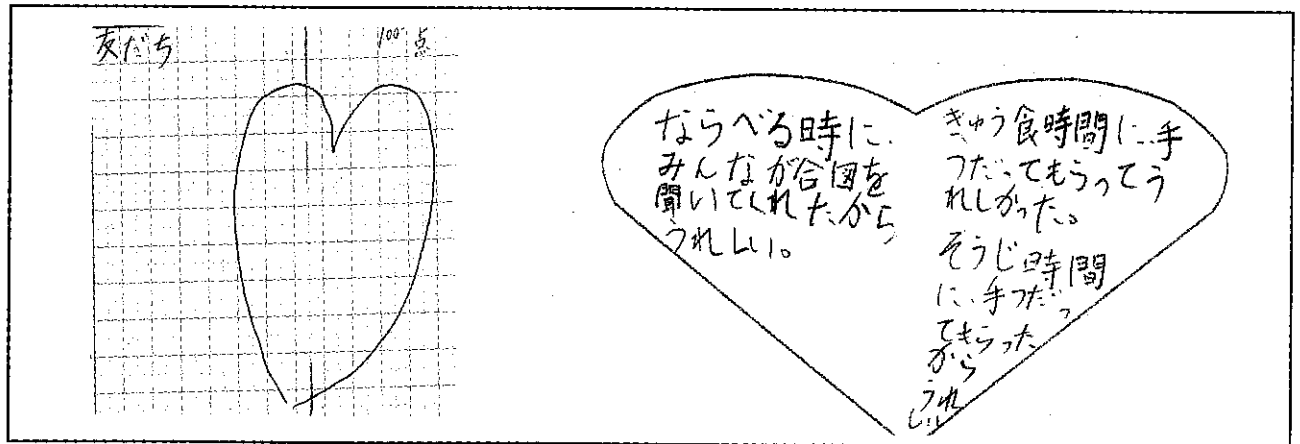


写真1 自分の考えを持つ

資料2は、肯定的言動と否定的言動に分けて書く活動を行った例で同じ子を比較したものである。

6月に今日の学習をふり返り、クラスの子の良かったこと、悪かったことを書かせる活動を行ったが、思

いつかない、見ていなかったということで、書くことが出来なかった。その後、何回かこの活動を繰り返して行ったところ、検証授業では、自分の考えを書く事が出来た。また、クラス全体を見ると96%の子が自分の考えを持って話し合いに臨むことができ、自分の考えを持つのに効果があったと思われる。



資料2 同じ子の書き方で比較した例

#### ② ふり返り活動

資料3・4は、2日目の授業後に書かせたふり返りである。1日目には、協力や仲間という言葉が分かったというふり返りしか書かれていなかったが、2日目には、体験した様子を詳しく書いたり、自分がどのような行動をとった、ということも書いたりする事ができていた。このことから、思考を深める場面を作ったり、くり返し書くことによって気自分の考えを発展させることができたのではないかとと思われる。また、ペアの子の様子も書いていることから、二人で言葉を交わしながら、活動を進めた様子が伺え、二人の話し合いで考えが発展できたのではないかとと思われる。

また、資料4の子の場合は、1日目から気づきが鋭く、よく書けていたので、みんなの前で紹介したところ、他の子も共感していたことから、集団の考えを発展させるきっかけになり。実践活動へもつながった。

れが協力に入るかと思いましたが、  
 ぐらひにひくしてあげました。ぼくはこ  
 ぼくのほうが高かったので B さん  
 とおりました。  
 やってやアになるが考えてやりました。さ  
 いしやくのゲームをしました。チームでい  
 とかについて勉強をしました。さいしよは、  
 今日協力はどういうこ

資料3

いると思っています。や  
 からです。 A さんは、やさしい心なも  
 のそうしのことかきました。うれしか  
 も A さんかきつた。てくれるから黒板  
 そうしのことと、わたしはかきました。い  
 した。ますは、びょうをしました。黒板の  
 ろうしのことについて、みんな話合いま  
 です。心を一つにも入っています。わたしは  
 とおひじなく、人のことも考えることで  
 ます。なのたすけ合い、思いあがる心  
 この入てをしようです。うかほ自分のこ

資料4

(2) 自主的・実践的な態度の育成及び

集団の一員としてよりよい生活を気づこうとする態度の育成について

① アクティビティ活動

アクティビティ活動(写真2)を取り入れ、終わった後に気づいたことや感想を書かせた(資料5)。その記録をまとめたものが表4である。表を見ると、楽しかった・上手に出来てうれしいなど、全員が肯定的なものになっていた。このことから、全員がアクティビティに興味・関心を持っていたことが分かる。また、作戦を考える子や、協力について気づいた子もいることから、気づきを引き出すきっかけになったのではないかと思われる。作戦会議では、(写真3)話し合いの進め方について、教えていなかったが、自分たちで考え進めることができた。活動から気づきを生み出し話し合いへと自然につながったことから、自主的な活動になったと思われる。

心を一つにがらんとできた。  
 さくせんかいぎをするとうまくできた。  
 せんとうやアンカをかえるじやりやすかた  
 おたたちどろのきょうかが大切だなあと思いました。あいつと  
 せきめるときにさうことなるとかめがめりました。

資料5 アクティビティ後のふりかえり

表4 アクティビティ後の主な感想

楽しかった	30%
合図を入れるとできた	19%
できなくてくやしかった	15%
協力って大切だと思った	11%
上手にできてうれしい	11%
心を一つにするとできた	7%
次は勝ちたい	7%



写真2 アクティビティの様子



写真3 作戦会議の様子

② 話し合い活動

個人の考えを決め付箋紙に書いて持ち寄って話し合いを行った。(写真4) このメンバーはあらかじめ決められたものではなかったが、付箋紙に書くという準備をしたことと、自分の考えを肯定的・否定的言動として分けて考えたことから、全員が話し合いに参加できた。グループでの話し合いを通して、初めて話す子もいたことから、他者理解にもつながったと思われる。しかし、個人の意見を出す(写真5)だけでグループ決定に至らない所があったため、機会を増やして取り組ませる必要があると思われる。

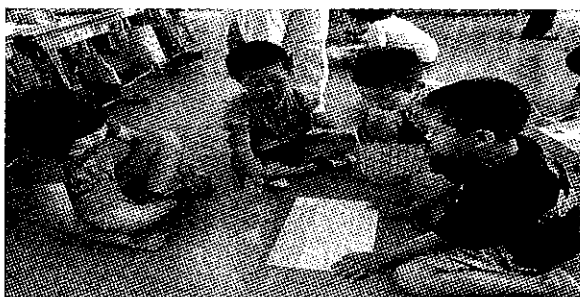


写真4 グループでの話し合い

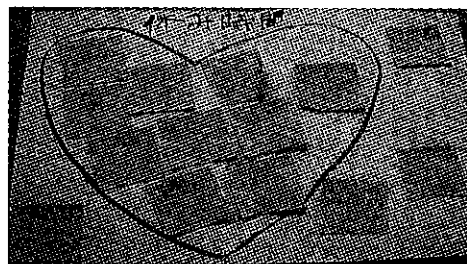


写真5 みんなの考えを出し合う

③ 実践活動の記録



（読者の）時に（読者の）が（読者の）  
ます。



きょうの時にみんなのために自分の  
奮がおわったら手っただいます。Q

できたかな		ペアのサイン
月日		
1/12	◎	
1/13	◎	
1/17	◎	
1/18	◎	
1/20	◎	
思ったこと	パートナーから	
新しい友だちができてうれしが		
できたこと、できなかったことから次がんばることを考えよう		
体育ができました。次は、算数のじのぎがんばります。		

できたかな		
月日	どんなことをしましたか (だれに どんなこと)	ペアのサイン
1/12	△	
1/13	△	
1/17	○	
1/18	○	
1/19	○	
思ったこと	パートナーから	
くはたさし入れているもたすかる のこのれがもつたいいす そしてけりがどうせ、いおれたい す		
できたこと、できなかったことから次がんばることを考えよう		
たしはやくたかたけの目目できょう食入れているがこお考するの で、けりがどうせ、いおれたいす		

資料7 実践活動の記録

資料7は、自分にできる協力について、個人目標を立てさせ、実践活動を行わせた時の記録である。

実践した内容を表にまとめてみると表5のようになった。表を見ると、個人目標は全員が、立てることができ、実践活動に意欲的に取り組もうとしたことが分かる。

また、その内容から90%の子が、みんなのことを考えた内容である事から協力について理解が深まったと考える。

また、実践活動も1週間続けて実施した子が62%と3日以上続けた子が28%いたので、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする態度の育成につながったと思われる。

表5 実践活動ワークシートから

個人目標	
①準備の遅い子の手伝いをする	33%
②掃除で困っている子の手伝いをする	30%
③給食を運ぶのを手伝う	19%
④何か困っている子の手伝いをする	4%
⑤分からない事がある子に教える	4%
⑦友達のためにと返答	10%
合 計	
100%	
実践活動の実施	
1週間忘れずにできた	62%
3日以上	28%
1日 掃除で困っている子の手伝いをする	10%
合 計	
100%	

#### IV 成果と課題

##### 1 研究の成果

- (1) 個人目標を書かせたことで、実践活動を忘れずに行うことができ、よりよい生活を築こうとする態度の育成へつながった。(Ⅲ-2-(2)-③)
- (2) ワークシートに書くことを通して、協力することに対して理解が深まるなど言語活動の充実を図ることができた。(Ⅲ-2-(1))

##### 2. 課題

- (1) 児童の発達段階や実態を十分に把握した学習指導計画の工夫 (Ⅲ-1-(5))
- (2) 集団の一員としてよりよい生活を築く態度の展開のしかた (Ⅲ-2-(2))

#### 〈主な参考文献〉

文部科学省	「小学校学習指導要領解説 特別活動編」	東洋館出版社	2008年
上条晴夫	「ワークショップ型授業が子どものやる気を引き出す」	学事出版	2007年
上条晴夫	「授業づくりネットワークNo.1, 2」	学事出版	2011年
田中博之	「学級力が育つワークショップ学習のすすめ」	金子書房	2010年
大橋邦吉	「クラスファシリテーション入門」	明治図書	2010年